

右之村々、當番之面々、來ル二十六日朝七ツ半時、御詰メ可被成候、以上、
天正二年戊八月十一日

讚岐用人

追而申候

横澤 大幡 中務殿

網代 貴志 兵八殿

立谷 貴志十郎 左衛門殿

戸倉 篠原 與惣次殿

加判之義ニ付、申渡候儀、御座候間、此書付廻付次第、讚岐役所江御越可被成候、油斷被成間敷候、
〔武州文書〕於熊谷之町ニ、小間物みせ等上下通可致所持者也、

天正八辰

十二月十五日

長野喜三どの

〔新編武藏風土記稿一百磨郡〕三澤村

百姓八右衛門土方氏ナリ、名主ヲ少トム、家ニ古文書ヲ藏ス、○中略

禁制 武藏國多西郡三澤村

一軍勢甲乙人等濫妨狼藉事○中略

右條々堅令停止訖、若於違犯之輩者、速可被處嚴科者也、

天正十八年四月日

印

〔古文帖〕久保新三郎

武州吉田村、貳百石、右出置畢、全可令知行者也、仍如件、

天正十九辛卯五月

御朱印